

大阪自然史フェスティバル2014
森に生きる不思議なサギ

日本野鳥の会大阪支部 講演会 2014.11.15
ミゾゴイ ～ その暮らしを知り、保護を考える ～

報告

新梅田シティのミゾゴイを 密着追跡した3日間(延33時間+)



— 採餌行動
を中心に —

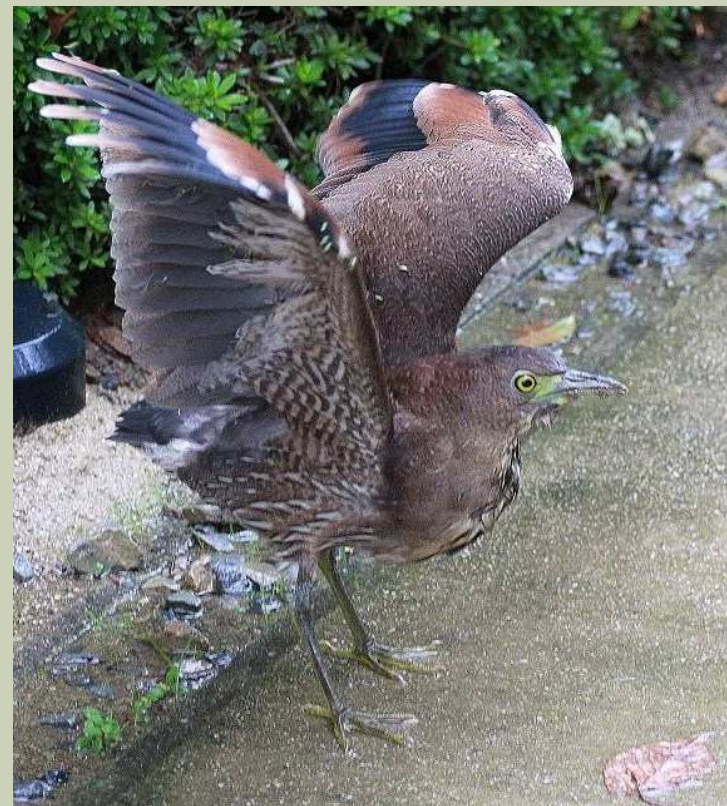
日本野鳥の会
大阪支部
幹事

な や ひとし
納家 仁

大阪駅のすぐ近く、新梅田シティの新・里山地区（北区大淀中、梅田スカイビル北側に2006年に積水ハウスが整備した約8,000㎡の里山環境）に2013年10月4日から11月21日までのおよそ50日間にわたりミゾゴイの幼鳥1羽が滞在。



新・里山データ



普段観察機会がないミゾゴイを見ようと、多くのカメラマンや観察者が集まったが、ミゾゴイは警戒することもなく、我々の目の前で、ミミズなどをさかんに採餌する様子を見せてくれた。



ミゾゴイ 成鳥と幼鳥の見分け方



成鳥

（繁殖期は目のまわりと目先が
水色になる）



幼鳥

成鳥より暗色で白黒の
細かい虫食い斑が目立つ

調 査 目 的 等

【背 景】 ミゾゴイの渡りの時期や越冬期の生態はよく分かっていない
今回、滞在中のミゾゴイは警戒心がなく、間近で採餌行動などを観察できる
絶好の機会

【目 的】

渡りの時期や越冬期の生態、特に採餌行動や食性について調査を行い、ミゾゴイの保護のための基礎資料を得ること。

日本野鳥の会大阪支部の幹事や会員などに呼びかけて、有志を募り、調査を実施した。



調査日、調査方法

【調査日】

2013年10月30日、11月3日、9日

11月下旬以降も調査を実施予定であったが、11月21日を最後に飛去したために上記3回の調査となった。

【調査方法】

日の出から日没後までの終日、ミゾゴイを観察し、餌を獲った時間、狩りの成否（10/30除く）、餌の種類、採餌場所、脱糞、伸び、休息、警戒、威嚇、ねぐら入りなどの行動を記録した。11月3日、9日はミゾゴイの1回の動作での歩数を細かく記録した。

表 ミゾゴイの採餌行動等について

調査日	10月30日	11月3日	11月9日	平均
天気・気温	快晴 最低14.5℃最高21℃	曇 午後雨 最低16.1℃最高18.2℃	晴 最低12℃ 最高19.5℃	
調査時間	6:40～17:05 10時間20分	6:14～17:15 11時間	6:17～18:10 約12時間	
延採餌回数	114回	115回	65回	98回
餌の内容	ミミズ類60 幼虫類19 不明35	ミミズ類75 幼虫類8 アマガエル2 不明30	ミミズ類35 幼虫類6 ショウリョウバッタ1 カエル類1 不明22	
ミミズの占める割合	53%	65%	54%	58%
持ち失敗数	—	59回	76回	68回
持ち成功率	—	66%	46%	57%
脱糞の回数	9回	10回	8回	9回

1 採餌行動

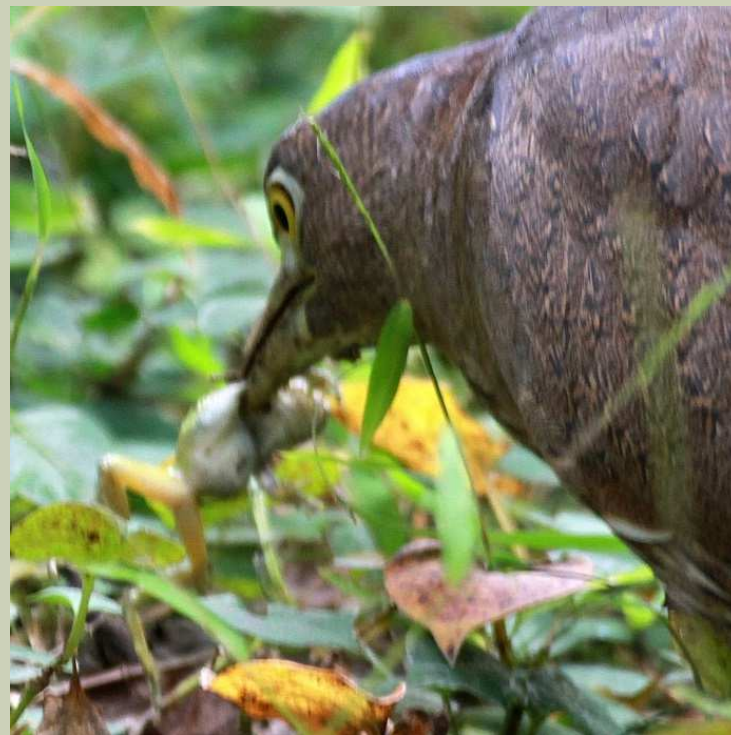
・ゆっくりとした動作から、首を前方に伸ばして地上の動きをじっと見て、ミミズなどを捕獲する採餌行動が多く見られた。





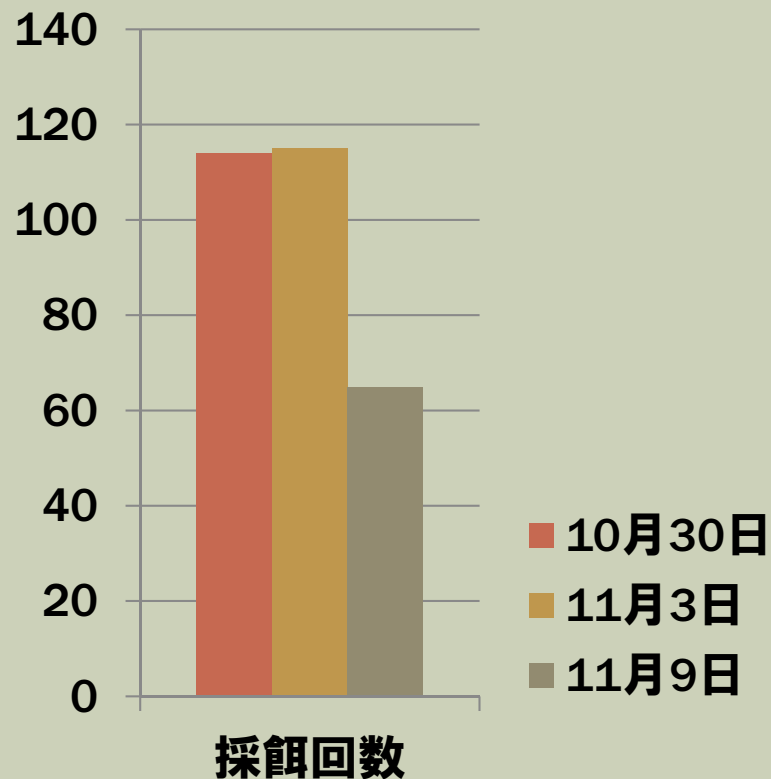
草の茂った場所でも、地中のミミズの位置を的確に見定めて捕獲できる。また夕暮れの照度の低い時間帯でも、ミミズを捕食していることから、視覚以外の能力を使っているのではないかとと思われる。

・11月3日には、飛び跳ねるカエルを素早く追いかけて一撃で捕食するという場面も観察できた。



2 採餌回数、狩りの成功率

・延採餌回数は10/30に114回、11/3に115回、11/9に65回であった。11/9は前2回に比べ顕著に採餌回数が減少した。狩りの成功率は11/3は66%と高かったが11/9は46%と低くなった。

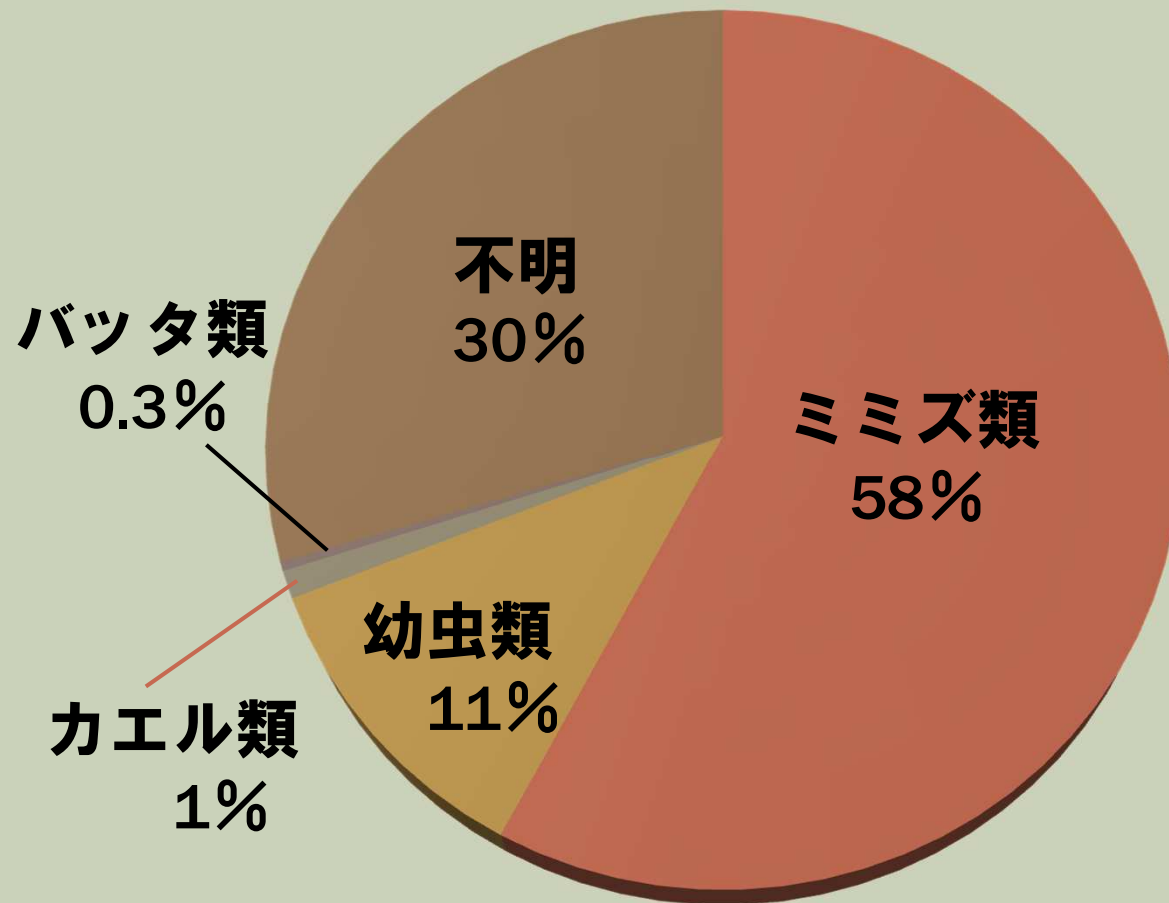


3 餌の内容

・餌はミミズ類が多く、全体の53%から65%を占め、ミゾゴイの主食となっていることが分かった。ミミズ類以外には地中浅くにいる甲虫類などの幼虫や地表付近のカエル類を捕食するのが確認できた。不明としたものは、獲物のサイズが小さく特定できなかったものである。



餌の種類 n=294



4 脱糞

ミゾゴイのフンは、白い尿酸の部分と固形の部分(爪楊枝程度の細くて小さなものから太さ1cm以上、直径2～3cmもあるもの)が認められた。脱糞回数は各日8～10回であった。



ぎ たい
擬 態



カラスの声に上空を見上げフリーズ。
さらに警戒すると、首をまっすぐ 上 にあげて、擬態の姿勢に入る。

いかく 威嚇



敵（ここでは散歩途中の犬や近くに来たキジバトなど）に対しては、頭の部分の羽毛を逆立て、翼を広げて体を大きく見せて威嚇する



サギ類特有の形態

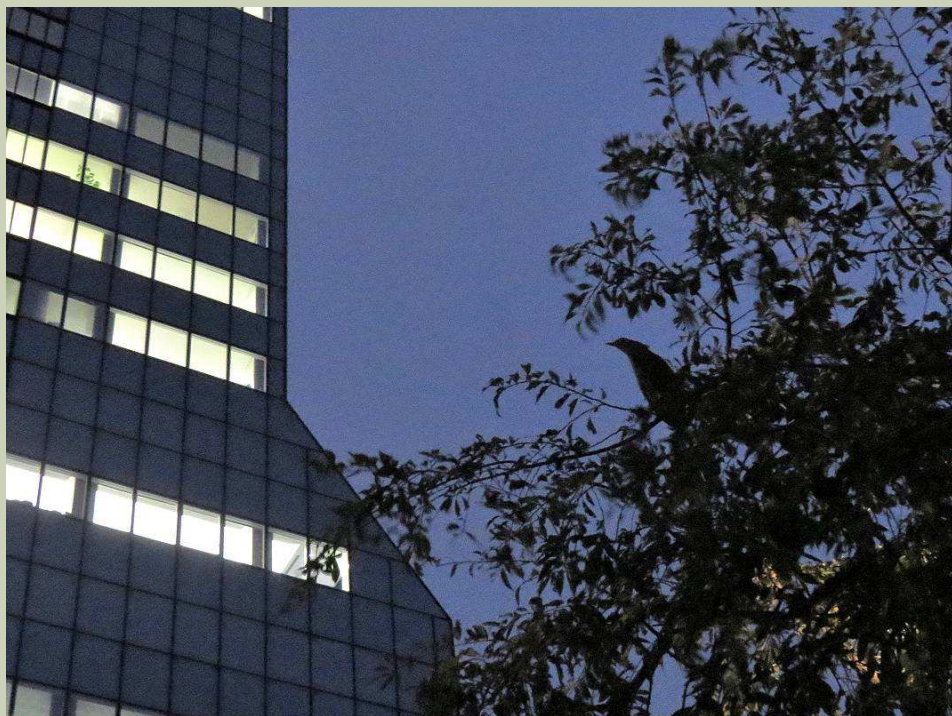
くしづめ

足指・中指の内側にある櫛爪

櫛爪を使っでの頭かき







ねぐらはどこ？



10月17日の夕方の調査では、日没後、一旦近くの木に飛び上がり、しばらく警戒の後、同じ里山地区内の北側の樹林地に飛び去りねぐら入り。

日中は近くにいる人間に対し警戒の様子を見せなかったが、ねぐら入りの前は、直接ねぐらの木には入らず、見晴らしのきく場所で、しばらくとどまって警戒し、その後ねぐら入り。

11月9日の調査時は、明らかに観察者を意識して、目立つ屏の上やビルの上に止まり、観察中は樹林地のねぐらに降りてこなかった。

幻の鳥…ミソゴイに会えた あなたに…

◆ 環境省レッドリスト

VU : 絶滅危惧Ⅱ類 指定

◆ 近畿地区鳥類レッドデータブック

ランク2: 絶滅危惧種

2012年の環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（＝絶滅の危機が増大している種。改訂前の絶滅危惧ⅠB類からランクダウン）に指定されています。

世界的には、繁殖分布が日本に限られ、国際自然保護連合（IUCN）レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に指定され、個体数は千羽未満と推定されています。



ミソゴイ (学名) *Gorsachius goisagi* (英名) Japanese night heron (漢字名) 溝五位

●ミソゴイとはどんな鳥か

夏鳥として、本州、四国、九州の平地や低山の沢または川沿いの樹木の茂った林に飛来し、繁殖。大阪府内でも、少数が生息し、今年、岸町の山林内で繁殖中の巣が確認されている。かつては、日本中どこにでもいた鳥だと知られるが、生息地である里山の環境破壊などにより絶滅が心配されるほど、減少。もともと地味で観察しにくいために注目されずにいたが、種を保存するためには、生息地の保護などの対策が急がれる。

中国南東部、台湾及びフィリピンで越冬する。九州では越冬例もある。

全長：49cm 翼開長（翼を広げた長さ）：87cm

鳴き声：4月末、繁殖地への飛来直後、夕刻から早朝にかけて「イ、フオー」と低音で単調な鳴き声で鳴いてメスを呼ぶ。繁殖期のさえずり以外には、ほとんど鳴き声を聞くことがない。

食物：主食はミミズ類。ミミズの他に、地表面にくらすみカデコ類やクモ類、昆虫類、サワガニなどを捕らえる。ここ新里山での観察でも、ミミズが主で、昆虫類（幼虫含む）、カエルなどを捕まえて食べているのが観察されている。返さず差し足で音を立てずにゆっくりとした動作で歩き、じっと地上の餌を狙う。ミミズや小さな昆虫などのわずかな動きを逃さずに、一撃で捕まえる。

天敵：ネコ、イタチ、テン、アオダイショウ、ハシブトガラス、オオタカなど。新里山では野良猫が脅威。

擬態：カラスの音が上空から聞こえると、音が聞こえる方向を見てフリーズ。さらに警戒すると、首をまっすぐ上にあげて、擬態の姿勢に入る。

威嚇：敵に対しては、頭の部分の羽毛を逆立て、翼を広げて体を大きく見せて威嚇する。



▲ 威嚇のポーズ



▲ 威嚇のポーズ



▲ 飛び降りたところ 翼の黒い帯が目立つ

日本野鳥の会 大阪支部 〒543-0011 大阪市天王寺区満水谷6-16NEXT21 1F

TEL06-6766-0055 (火・金 AM10~PM6) FAX06-6766-0056

●なぜ、こんなに近くで見られるの？ けがをしていたり、病気しているのでは？

このミソゴイは今年（2013）夏に生まれた幼鳥です。人に対する警戒心がないのは、ミソゴイを観察・撮影されている皆さんが、脅かすことなく、やさしく見守ってくれているからだと思います。

近づいてくる野良猫には警戒して、走って逃げたり、また散歩中の犬（小型犬）には、翼を広げて威嚇する様子が観察できます。

10月4日に、スカイビルの地下駐車場に迷い込んでいたのを保護され「新里山」に放されたということですが、けがや病気などなく、飛ぶこともでき、元気です。渡りの途中に立ち寄ったビルの谷間の人工里山の環境が気に入って、長居しているということです。

●もうすぐ冬、いつまでもここでいて大丈夫なの？

ミソゴイは夏鳥で、冬は南の国に渡りますが、餌が豊富にあれば、ここで冬を越す可能性もあります。この鳥が、いつまで、ここに滞在するのか、見守るしかありません。※九州では、越冬例もあります。

●餌は十分とれているの？

セキスイハウスがつくられたこの「新里山」は、薬剤使用を抑えた管理がされており、良質な土壌には、ミソゴイの主食であるミミズがたくさんすんでいます。ミソゴイは、ミミズ類を中心に甲虫などの幼虫やバッタ類など、地上付近にいる小さな生き物を餌としています。11月3日の終日（11時間）観察では1日の延べ採餌回数は115回で、餌の内訳は、ミミズ類75、イモムシ（幼虫）類8、カエル類2、不明30であり、餌の65%がミミズ類でした。餌は今のところ十分にとれていると思われます。かわいいからといって、人間がむやみに餌を与えるということは、しないようにしましょう。

●夜はどうしているの？

ミソゴイは、繁殖期には夜に帰るために、最近まで夜行性の鳥と考えられてきました。しかし、繁殖期の調査で、雛への給餌活動は昼間しか行われず、夜には親鳥は巢内で雛と一緒に眠っているということが分りました。ここ新里山でも、日没後に木に飛びあがり、枝移りで木の頂近くまで上がり、そこから他の木に飛び移り、ねぐら入りするところが観察できました。ミソゴイは、夜間は安全な高木の枝に止まり、眠っています。

■まだまだ分からないミソゴイの生態

川名国男氏による東京都内での2006年から2011年にかけての6年間の調査により、謎とされてきたミソゴイの生態が明らかになってきました（「ミソゴイ～その生態と習性」川名国男2012年、参照）。しかし、まだ不明な点も多く、繁殖期以外の生態はほとんど分かっていません。今回、身近にミソゴイが観察できるまたとない機会であることから、日本野鳥の会大阪支部では、ミソゴイの採餌行動を中心に継続観察を行っています。あわせて、貴重な鳥であるミソゴイを見守ることとしています。

お願い：ミソゴイの様子がおかしいとか、猫に襲われたなど、何か緊急事態が発生した場合は、ぜひ、お知らせください。本会緊急連絡先 TEL090-1025-6918 又は 090-1139-8901

※けがや衰弱など保護が必要と思われる場合は、

大阪府動物愛護畜産課野生動物グループ TEL06-6210-9619 まで連絡してください。

野鳥も人も地球のなかま！ 日本野鳥の会に入会しよう！ 私たちは野鳥の観察を通じ、野鳥と野鳥の生息する自然を守る活動をしています。全国で会員は約4万人（大阪支部は約2,000人）。支部の会員になると採餌会の案内や鳥の情報がたくさん載っている「むくどり通信」が年に6回届きます。詳しくは支部のホームページをご覧ください。

日本野鳥の会大阪支部 URL: <http://sun.mobbo.jp/wbsj-osaka/>

2013年11月

幻の鳥・・・ミゾゴイに会えた あなたに・・・

◆ 環境省レッドリスト

VU：絶滅危惧Ⅱ類 指定

◆ 近畿地区鳥類レッドデータブック ランク2：絶滅危惧種

2012年の環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（＝絶滅の危機が増大している種。改訂前の絶滅危惧ⅠB類からランクダウン）に指定されています。

世界的には、繁殖分布が日本に限られ、国際自然保護連合（IUCN）レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に指定され、個体数は千羽未満と推定されています。



ミゾゴイ (学名) *Gorsachius goisagi*

(英名) Japanese night heron (漢字名) 溝五位



— 11月21日の早朝を最後に姿を消した
ミゾゴイの幼鳥。無事、南の越冬地に
渡っていただろうか —



ご清聴ありがとう
ございました。

■調査参加者(50音順 敬称略)

池上和博、川嶋英江、杉田福松、高田 博、常石明子、
納家朱里、納家 仁、橋本正弘、松岡三紀夫、山本圭持
調査にご協力いただいた皆さんありがとうございました。